

足立区立江北桜中学校
校長 金子 哲朗 様

足立区立江北桜中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 今西 靖彦

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

- ・今年運動会、江北桜祭でも3年生を中心として、生き生きと真剣に取り組む生徒の姿が印象に残った。学年が上がるにつれて、後輩や学校全体を意識して取り組み方が変わってくるのは、中学校という時期特有のものではないか。大切な時期を共に過ごし、導いてくださっている先生方に大変感謝している。生徒アンケートでも、学校行事への参加意欲は96%の生徒がA（最高評価）だと聞いた。これからもぜひ頑張ってもらいたい。
- ・ICT活用については、先生方が夏休み中に自主研修を何回も開いたと聞いた。生徒が宿題で勉強するのは当たり前だが、先生方も仕事だけでなく勉強しているということを知り、仕事のご苦勞をつくづく感じた。これからもよろしくお願いします。
- ・朝の読書活動が順調に実施できているとのこと。語彙力・文章力の向上については、税の作文や標語で優秀な作品が出たり、調べる学習コンクールでも区長賞を受賞したりと成果が出ているように感じた。これからも継続して取り組んでいただきたい。
- ・日常的に生徒は落ち着いて学習できているとのこと。区学力調査で昨年より良い結果が出ているというのも日頃の積み重ねの成果だと思う。
- ・「家庭学習ノート」やパソコンを活用した学習などを活用して、家庭学習も定着してきたということも良かった。また、放課後学校に残って、図書室で勉強する生徒も多くいるとのこと。子供たちの頑張りを応援したい。
- ・道徳授業では、学年の先生が毎回交代でクラスを替えて教えている。いろいろな先生から指導を受けられて良い方法だと思った。仕事の都合で道徳授業地区公開講座はうかがえないことが多いが、できれば参観したいと思う。
- ・江北桜の生徒には、いつもボランティア活動に協力してもらっていて感謝している。職場体験でも職場の方から「ぜひまた来てほしい」と嬉しい声が聞かれたという。勉強も大切だが、地域や大人と良い協働関係をつくれる力はもっと大切だと思う。成長し、社会で活躍することを期待している。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・不登校については、様々な理由により毎年の課題になっているとのこと。学校では、毎週そのための会議を開いたり、不登校の生徒が通える部屋を毎日用意したりと対応策を取ってくれている。不登校生徒数は昨年度より若干少なくなっていると聞き、今後少しずつでも解決へと進んでいくことを期待している。
- ・開かれた学校づくり協議会としてあいさつ運動を実施しているが、今後、校長先生・副校長先生だけでなく他の先生にも声をかけて実施できるとさらにより取組になると思う。
- ・学校では、生徒の自治的・主体的な取組を大切にして指導しているとのこと。中学を卒業して、高校や社会に出ることを考えると必要な指導だと思う。ほんの数年前まで小学生だったことを思うと、親にとっては切り替えが難しいこともあるが、子供を一人の人間（大人）として見て扱うことが保護者・地域に求められていると思った。

3 その他

- ・上の話を聞いた上で、来年の運動会や合唱コンクールを参観するのが今から楽しみになっている。
- ・ボランティアなどで生徒を褒めることも当然あるが、叱る場面ではきちんと叱れる地域でありたい。生徒の登下校中などで周囲への迷惑（広がって歩くなど）が見られる時は、地域の大人として指導したい。（学校としても勿論お願いしたいと考えています。）